岡山・鳥取両県知事会議　議事録

日　時　　平成２６年１月１６日（木）
　　１５時３０分～１６時５０分

場　所　　倉敷アイビースクエア

１　開会

○司会　それでは、定刻でありますので、ただいまから岡山・鳥取両県知事会議を開会いたします。本日は、遠いところを鳥取県の平井知事様を初め皆様方にはお忙しいところをお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

私は、本日の進行役を務めさせていただきます、岡山県総合政策局長の藤井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それではまず、初めに開催地である岡山県の伊原木知事からご挨拶を申し上げます。

２　両県知事挨拶

○伊原木知事　平井知事におかれましては、わざわざ倉敷までお越しいただきまして、本当にどうもありがとうございます。大歓迎をさせていただきます。

昨年の１月に、私が知事に就任してまだ間もないころに三朝町で知事会議を開催していただいて、そのときに倉吉の白壁土蔵群をご案内いただきました。私は、受けたご恩はできれば倍返ししたいと、倍返しできないにしても等価交換ぐらいにはしたいということで、今回は倉敷の美観地区をごらんいただきました。その１年前の知事会議の後の懇談会で、平井知事からいろんなことでお互いのメリットになることを一緒にしましょうねと、協力しますよとおっしゃっていただき、本当にありがたかったわけですけれども、それからわずか１年で鳥取県と岡山県、共同アンテナショップの協定の締結に至ることになりました。本当にありがたく思っております。ここで、尊敬する平井知事のアイデアをいただきまして、和歌を述べさせていただきます。「去年の春　いこじて植ゑし　我がやどの若木の梅は　花咲きにけり」。去年の春植えたばかりの梅がもう花を咲かせている、この鳥取県と岡山県の関係をよくあらわしているんじゃないかと思っております。

平井知事におかれましては、子育て同盟などいろいろな分野でご指導いただいておりまして、本当にありがたく思っておりまして、本日も有意義な知事会議になることを願って、私のご挨拶といたします。よろしくお願いいたします。

○司会　続きまして、平井知事さんからご挨拶を頂戴したいと思います。

○平井知事　ただいまは岡山県の伊原木知事から大変に心のこもったお話までいただきまして、本当に感謝の極みであります。また、今日は倉敷の美観地区、それから古い町並みを歩かさせていただきました。倉敷の皆様、岡山県民がいかに町を愛し、それを育てようとされておられるのか、本当に胸が熱くなるような思いがいたしました。今を去る江戸時代の初め、明暦３年に紀伊國屋が開かれ、それがさらに大坂屋に受け継がれ、さらに今度は明治２５年、林源十郎商店に改名をされて、あの町をつくってこられた。そこに大原家の皆様もいらっしゃって、お互いに力を合わせられた。そういう苦労の跡がしのばれるような町並みを見させていただきましたが、そこに辻さんという暮らしき編集部の代表取締役さん、あるいは楢村さんというデザイナー、そういう皆さんがお力を加えられまして、すばらしい町に生まれ変わっている。それに深く感銘を覚えました。

実は、倉敷は、私自身もいろんな思い出もありますし、非常に憧れの町でありました。アイビースクエアの中で会議が持てるというのは夢のようでございますが、この美観地区、歩いてみると意外とちっちゃいなと当時思ったものであります。しかし、それが面的に広がって、さらにデザインだとか、あるいは食べ物だとか、いろんな厚みが加わったまちづくりに発展されておられますのが大変に勉強になりました。こういうような心意気、そして行動力また英知で岡山県のご発展があらんことを祈りますし、鳥取県ともどもその地域振興にあずかれればありがたいと思います。

去年は伊原木知事が就任されて間もないころでありましたが、熱意あふれるお話をいただきました。例えば両県の交通ネットワークを接続していく、あるいは産業振興を一生懸命やらなきゃならない。このたび岡山でも概算の要求といいますか、予算のフレームが示されつつありますが、工業団地の造成や観光振興等々、本当にエネルギーのこもった政策が今展開されようとされています。１月１５日には伊原木知事の雄姿がインターネット上で登場しまして、何と歌のうまい人かなと思いましたが、さっき聞いたら劇団四季の人だったというようなことも。一部ですけどね。一部は、最初の岡山県というのは伊原木知事が歌っておられたということでございましたけれども、大変に感銘を受けました。

お互い若い知事同士で、これからも力を合わせて情報発信なり、あるいはいろんな事業展開をしていければと思います。

早速去年の話し合いを踏まえて、この後アンテナショップの話し合いもできることになりました。胸躍るような気分であります。

ただ、今の情勢を見ますと、政治情勢もそうでございますけども、経済についても非常

に好調に湧いてきているのも事実であり、有効求人倍率等が上がってきているのも事実でありますが、もうすぐそこに消費税の増税が控えている。いわば断層面が見えているところでございます。また、東京がこれからオリンピックやパラリンピック、今から知事選の話もありますが、大いに飛躍をしようという中で、地方も一緒に動いていかなければならない。東京だけのオリンピックであってはならないわけでありまして、むしろ全国がそれぞれ地方の魅力を活かした地域づくりをしていかなければならない。そんなかたちで、いろいろとこれからの時代をにらんで小回りを利かしてやっていく、そうやって地域の住民の皆さんや地域の発展を導いていかなければならない。それが我々県行政の役割ではないかと思います。「大山を果たてに望む窓近く、体かはしつつ、いはつばめ飛ぶ」。これは、この正月に当たりまして天皇陛下がお詠みになられました御製でございます。実は、ここからほど近い大山で植樹祭を開かれたときにお泊まりになった宿に窓ガラスがあるんですが、その窓ガラスにぶつからないようにイワツバメが器用に身をかわしながら飛んでいったと、こういうような情景を詠まれたわけであります。私たちも岡山県、鳥取県、力を合わせてすばらしい地域づくりをスピーディーに展開していければと思います。

今日、本当に一日お世話になりましたことを厚く厚く御礼を申し上げて、晴れの国おかやまのこれからのご発展をお祈り申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

３　意見交換

○司会　ありがとうございました。

それでは、これより意見交換に入らせていただきたいと存じます。

本日は、首都圏アンテナショップの共同開設など６つの項目を用意いたしております。

日程といたしましては、協定の締結の前まで、意見交換自体は１６時２０分ごろまでの予定でお話を進めさせていただければと思います。

それでは、これ以降の進行につきましては伊原木知事によろしくお願い申し上げます。

（１）首都圏アンテナショップの共同開設

○伊原木知事　それでは、早速最初の項目の首都圏アンテナショップの共同開設について、私から始めさせていただきます。

昨年の１２月４日、両県共同で首都圏アンテナショップを開設することについて合意を

させていただいて、私としても鳥取県という力強い、心強いパートナーを得まして共同でアンテナショップを開設できることになりまして、本当にうれしく思っております。アンテナショップは、ご案内のとおり新橋に開設をいたしまして、物販店舗、軽飲食店舗、催事スペース、観光・移住コーナー、ビジネスセンターといった機能を持たせることになっています。

首都圏の消費者の皆さんに、両県の特色ある産品を紹介するとともに、観光ですとか移住に関する総合的な情報受発信の拠点として活用し、本県の認知度向上とブランドイメージの確立、県内産業の振興につなげたいと思っております。幸いなことに、すぐはす向かいに香川県と愛媛県の共同アンテナショップがありますので、この地の利を生かして、例えば中国連合対四国連合といった戦いを仕掛けていくといったことも考えていきたいと思っております。

この首都圏でのショップ開設の先輩であります鳥取県のお知恵も拝借しながら、ぜひいいショップにしていきたいと思っております。しっかり意見交換を行って、合意に至ることができましたらいいなと思っておりますので、よろしくお願いします。

○平井知事　ありがとうございました。伊原木知事には本当に機動的に動いていただきまして、気が合うなと、正直この経過で思いました。私もあそこのスペースがいいなと思っていて、岡山県さんと話ができないかなということを内々、中で申し上げておりましたころに、伊原木知事からメッセージが来まして、共同でのアンテナショップをやろうということであります。今まで中国地方ばらばら、一県一県それぞれに展開をしていました。それを力を合わせてやることで、山陽と山陰のそれぞれの産物を組み合わせることができると思います。

実は私たちも新橋で、この近くで展開しておりますが、正直、品ぞろえ等の面でお客様の魅力が半減するというような感じもないわけではありません。伊原木知事もご専門なのでよくご案内だと思いますが、お買い物に来られるお客様にとって、そういう買いたい物があるかどうか。我々でいったら売り残しといいますか、そういうものが出ること、これはないほうがいいわけですね。そうすると店の魅力が増すわけであります。例えばオイスター、カキをとってみましても、私ども鳥取県のほうは夏場にカキがとれます。岡山県では日生のカキがちょうど今のシーズンがおいしいわけでございまして、冬と夏が逆転をするわけですね。そういう意味では、それぞれ季節の産物を楽しむことができる。また、夏から秋にかけまして岡山の桃とかブドウとかおいしい季節になってきますが、鳥取はスイ

カとか、あるいは梨とかでございまして、このコンビネーションといいますか、ポートフォリオが違うわけであります。ですから、これを組み合わせることでそれぞれのよさ、山陽と山陰が一体となって初めて東京の皆さんに、首都圏の皆さん、全国の皆さんにどおんと力のある、そういうバラエティーを見せることができると思います。

観光面もそうです。これからもっともっと海外からの誘客とか東京での誘客を図る、その舞台としても両県が力を合わせる場ができることはありがたいと思います。

また、先ほどのプロモーションビデオのように移住もそうです、移住もそれぞれのところの特徴を来ていただいた方に見ていただいて、だいたいこの辺に定着されるというのはあるんではないかなと思います。そういう共同戦線が張れる舞台になればいいなと思います。

ぜひ物産、それから観光、移住、それから私ども実は新橋で展開しておりますビジネススペースの提供、こうした４つにわたりまして、両県がいわば割り勘、折半で運営できる、そういうスペースになることをお願いを申し上げたいと思います。できれば、今日もいろいろセンスあふれる、こちらの方々の感性を拝見したような感じがいたします。魅力ある店舗にして、できるだけ効率的に、また一定程度収益も確保しながらリーズナブルな運営も心がける必要があろうかと思いますが、ぜひこれから、お互い共同の運営委員会のようなものをきちんと設置をしまして、早速この店舗を扱ってもらえるような、そういう事業者をこれからコンペのようなかたちで選んでいって、もっともっと進めてはどうかなと思います。

そして、四国と中国の戦いの火ぶたが切られるわけでございまして、実は先般、カマタマーレと一緒に香川の知事がやってきまして、アンテナショップつくるんですねみたいなことをおっしゃるわけです。向こうも相当意識していますから、こちらも本気でぶつかっていくと。そのぶつかり合いの中で話題が生まれると思うんですね。我々の魅力が発揮されると思いますし、四国側の魅力も全国に伝えられるチャンスだと思います。ぜひとも活かしたいと思いますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

○伊原木知事　そうですね、サッカーのかたきをアンテナショップで討つぐらいのつもりで、是非。岡山県も共闘して頑張りたいと思います。

○平井知事　よろしくお願いいたします。

○伊原木知事　でも、これは明らかにそれぞれ個別にやっているよりも相乗効果がいろいろ考えられますので、ぜひよろしくお願いします。どうもありがとうございます。

（２）地球温暖化対策における両県の連携促進

○伊原木知事　アンテナショップで地域を熱く盛り上げたいということですけれども、地球が熱くなっては困るということで、次は地球温暖化対策における両県の連携促進について、平井知事からお願いいたします。

○平井知事　これは、このたびの予算のフレームの中でも１億円以上の開発助成が計上されようとしています。岡山県もそういう意味で電気自動車の開発に、それから普及に力を入れておられます。

私ども鳥取県も、やはりエコなツーリズムを大事にしなければいけないと思います。そういう意味で、全国のイニシアチブをとろうと、岡山県とも共同しながら電気自動車の給電スポット、充電スポットをつくってまいりました。今では鳥取県全県で１００カ所ぐらい、その充電スポットができました。５００を超える目標を持ってやっております。人口当たりのスポット数でいきますと、全国トップでございます。岡山県もすごいんですけれども、鳥取県も小さいですが、かなり走ろうと思うとそれなりの距離がありますから、それぞれの場所に敷設をしていただくと。県も助成金を出してやっているわけであります。

岡山と今までも共同してこういうエリアづくりをしてきましたので、できれば電気自動車を使ったエコツーリズム、そのモデルツアーのようなものを共同で実施したい。こういうドライブルートがありますよと共同でアピールしたりということがあってもいいのではないかと思います。

また、そのほかにも再生可能エネルギー、これも岡山県さんで太陽光発電の敷地提供だとか、いろいろと先進的な取組をされています。鳥取県でも米子にあるソーラーパークにおきまして、４２．９メガのソーラー発電所が２月の初めにオープンすることが決まりました。さらにバイオマス発電、これも銘建工業さんを初めとして、岡山県は全国の中でも注目される存在だと思います。鳥取県もそういうバイオマス発電を、県内で少なくとも今１カ所決まりまして、２カ所目ができるかどうか、これを選定中といいますか、コーディネート中でございます。この辺もいろいろと知恵を分け合ったり、こういう環境イニシアチブをこの山陽、山陰でとってますということをアピールしていくチャンスかと思います。子どもたち、あるいはこういうことに興味がある全国の方々に材料を提供していければいいなと思います。

その意味で、里山資本主義を岡山・鳥取両県で先導的に提唱していけないだろうかと

思っています。藻谷浩介さん、山口のご出身の方でいらっしゃいますが、先ほど申し上げた銘建工業さんも舞台になっていますし、中国山地のあちこちに、いわばこれからの里山資本となるものが眠っているわけですよね。藻谷浩介さんの説で言えば、食料、中山間地を初めとした農業、また水、これも中国山地からあふれんばかりの水が湧いてきます。さらにすばらしい環境、エネルギー、こういうものがあります。エネルギーもバイオマスや太陽光、風力等々があるわけであります。こういうものを私たちでエリアとして里山資本主義をつくっていこう、こんな運動を起こしてみたいと考えておりまして、ぜひ伊原木知事のご指導もいただければありがたいと思います。ＣＬＴという、木目を十字にクロスさせたティンバーでございますけども、そういうクロス・ラミネーテッド・ティンバーというものを私どもとして育てていく必要があるんですが、銘建さんがその先進でございまして、国土交通省も３階建ての住宅等ができるように基準の見直しをしようかと言っています。鳥取の中でもＪパネルと言われる、やはりクロス・ラミネーテッド・ティンバーの製造をしているところがございまして、これも実は藻谷さんの本にも入っています。

こういうような、例えば林業関係、製材関係、そういうものもありましょうし、この後も出てくるかと思いますが、ジビエだとか、いろいろ里山の中で生まれてくる喜びの種があると思います。この辺も含めてエコなツーリズムを初めとした地球温暖化の対策、再生可能エネルギー、里山資本主義、両県をモデルゾーンにできないかと思いますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

○伊原木知事　どうもありがとうございます。全くそのとおりでありまして、私自身いろんなもので作業がテイクオフしたらもう民間にお任せすればいいと思っているんですけれども、世の中にはテイクオフするまでが大変だったり、もしくはニワトリと卵の関係にある、例えば電気自動車。電気自動車が売れていない理由の一つが、充電所がないから買っても怖いっていうことですし、充電所が整備されない理由は、いや充電所を作っても電気自動車がこの程度しかないと採算とれませんという、このどちらか若しくは両方でこのニワトリ、卵のお互いすくみ合いを突破することでぐっと盛り上がってくる。そこは行政が、リスクというのか、最初に一肌脱いでやるべきところであろうと思っています。

実は、私自身もこの電気自動車の普及促進についてはかなり力を入れているつもりでありまして、せっかく国の制度ができた、あと自動車会社のほうで補助をしてくださっているということで、岡山頑張っているぞということで、５８６カ所に充電設備を作る計画を立てているわけですけども、これはかなり頑張っているなと思っていたら、岡山県よりは

面積で狭い鳥取県さんでほとんど同じ数計画されているということで、できるだけ早くこの数を達成して上積みをしなければいけないと思ったところでございます。

あと、ご提案いただいたエコラリーについては、これはいいことですので、スピードを競うわけではなくて、どちらのほうがエコなのかということをぜひ競って、いろんなところをめぐるラリーを企画していきたいと思います。そういうことを楽しくやったりイベントで盛り上げたりすることで普及が早まったりすることもあろうかと思いますし、先ほどの藻谷さんの話、里山資本主義を生かしていくやり方、ぜひご一緒にさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○平井知事　ぜひよろしくお願いいたします。例えば瀬戸内海を雄大に見て、そこからずっと日本海に至るまで蒜山や大山の山並みを越えていく、その箇所箇所で充電スタンドがあることを確認していただいたり、そこにいかにも自然と一緒に楽しめるような街道筋がございますので、その辺を渡り歩くとかですね。ちょっと温泉だとか、あるいは牧場だとか、そうしたところを楽しんでいただくとかコースづくりもして、今知事がおっしゃったのはなるほどそうだなと思います。スピードを競うのではなくて、どれだけ自然環境に優しい旅ができるかという、それを点数付けして競うようなラリーがあってもいいかもしれません。非常にいいアイデアだと思いましたので、また持ち帰って、お互いに担当部局同士で調整させていただければありがたいと思います。

里山資本主義については、私どもも例えばフォーラムをやるとか、新年度も考えたいと思いますので、岡山県さんもまさにそのメッカですから、一緒になって参画をしていただければありがたいと思います。

○伊原木知事　藻谷さんももう１０年来の、藻谷さんは日本中に何千人もお友達がいらっしゃいますけど、そのうちの一人でいることは大変に光栄に思っていまして、ぜひ一緒に頑張りたいと思います。

（３）有害鳥獣対策と利活用

○伊原木知事　では、この電気自動車が走り回る未来というのも非常に楽しみなんですけれども、イノシシやシカに走り回られると困るなということで、次の項目、有害鳥獣対策と利活用について平井知事からお願いをいたします。

○平井知事　私どもからご提案させていただきたいのは、非常に困っている、それは被害が拡大していますし、明らかに年々被害の様子が変わってるんですね。最近鳥取県内でも

シカの被害が増えてきました。この１年、昨シーズンを見ますと１，８００万円ぐらい、２，０００万円弱の被害です。お聞きしますと岡山県はその４倍とか、かなり大きな額の被害があると。シカはみんな食べちゃうんですね。例えば、せっかく植林をしても、その若木の芽をみんな食べてしまって枯らしてしまう。それから、畑のものもそうですけれども、そういうのを何とかしなければいけないと思うんですね。従来はイノシシが多かったですけれども、そういうシカのほうにも広がってまいりました。

先般松江で開かれました中国地方の知事会議で、伊原木知事からもかねてご提案をいただいてるわけでありますが、鳥獣被害対策でも一緒に相乗りでやっていこうということでございまして、ぜひ両県で進めさせていただければありがたいと思います。

いろいろと得意分野もあると思うんですね。鳥取県でも捕獲の仕方、いろいろ研究させていただいて、最近は新しい、何頭もシカが入るようなケージをつくって捕えてみたり、スマートセンサーといわれるものの導入を試みたり、いろいろと我々もそれなりにバージョンアップをしてきています。また、岡山県さんもいろいろとこれまでご経験もおありで、例えばシカの皮を活用されるとか、商品化も含めて進めておられたりしていると伺ってまいったんですが、そういうことでシカをしとめた後、ジビエ料理として提供する、それからその皮を利用する。その辺、県境を越えて連携できることって、実はいろいろあるのではないかと思います。

これはシカに限らず、イノシシであるとか、そのほかの例えば最近はヌートリアでありますとかアライグマでありますとか、この辺も、岡山県もそろそろ入ってきているのかどうかです。どうしてもヌートリアは、割と西のほうから来ております。また、アライグマは東のほうから来ておりまして、だいたい岡山・鳥取両県は広島や兵庫から攻められていますね。向こうから毛利が攻めてきて、こっちから官兵衛が攻めてくるわけでありますが、そんなことになっているわけでございまして、我々も非常に苦労しているわけでありますが、両県力を合わせて、その撃退を図っていければありがたいと思います。

ジビエ料理につきまして、ほぼ両県同時に全国のジビエの協議会にも加入したわけでありまして、我々もこのたびのイベントに東京で参加させていただきますが、これもローカルに、岡山でもされる機会もあろうかと思いますし、ぜひ有害鳥獣の捕獲を進める必要があると思います。とにかく県境を越えて自由に彼らは行き来をしているわけでありまして、両県が力を合わせないと対策が有効でないということでありますので、伊原木知事のお力をいただきたいと思います。

○伊原木知事　ありがとうございます。シカ、イノシシについては、岡山県はイノシシの害のほうが多いのですが、シカも大変です。この前兵庫県と知事会議をしたときも、やっぱり大体この３県の辺りでシカだったりイノシシ、あとクマもありますが、この県境を彼らにうまく利用させてはいけないということで、ぜひそれぞれの県境の両側できっちり共同歩調をとっていかなければいけないと思っています。

岡山県の場合は毎年４億円前後の農林被害があって高止まりをしている状況でございます。いろんなことを我々自身も頑張っているつもりでありまして、まず守ると、柵をして入ってこれないようにするということと、あとはもう捕まえてしまうと、捕獲ということを両方やっていますし、あと撃つということもやるわけですけれども、捕った場合にただ処理をするとコストばかりかかりますので、いかにそれを有効に活用するか、さっきおっしゃっていただきましたように皮をどう加工するのか、骨をどう使うのか、あと肉をどう処理していくのか、安全に処理したい、できればジビエ料理として特産として売っていきたいと。ジビエ料理については、今いろいろ講習会をしたりして随分評判がいいと聞いています。

それについて言えば、この鳥獣害対策についての専門家を育てるに当たって、岡山県よりも鳥取県のほうが専門家の方がいらっしゃるということで、それについてはぜひまた指導をいただければと思っております。ぜひ、我々今大型の囲いわなの実証に取り組んでおりまして、意外とたくさん捕れる、何かちょっとびっくりするほどたくさん捕れている写真とか見たりするんですけれども、我々のほうでうまくいったやり方などはぜひお隣の県にもお伝えしたりして、いいやり方をぜひ広めていきたいと思います。

とにかく、私自身も、県議会でもそうですし地域に行ってお話をお聞きしますと、「せっかく育てたものを食べられてしまうとやる気をなくしてしまう。」ということで、ぜひきちんと、彼らは彼らの領域で生活をして、我々のところに来て荒らさないように、いろいろ協力していきたいと思います。よろしくお願いします。

（４）外国人観光客の共同誘客促進

○伊原木知事　先ほど、この招かれざる客のお話をしたわけですけれども、今度は大歓迎したいお客様のお話、外国人観光客の共同誘客促進について、私からさせていただきます。

ご案内のとおり円安の影響もありまして、外国人訪日客が初めて年間１，０００万人を

超えたというのは本当にうれしいニュースだと思っています。特にアジアからものすごい勢いで日本にお越しくださっている。これまで日本に来られる方というと、何か欧米人のイメージが多かったかもしれませんけど、やっぱりアジアから多くなっている。かつまた中国はものすごい人口がいて、これからどんどん豊かになるわけですから、伸びしろもすごく大きいわけですよね。ぜひ力を入れていきたいのですけれども、それにしても岡山県とか、もしくは中国地方は全般的に知名度がないということで、損をしていると感じております。

あと、岡山空港も鳥取空港もそうだと聞いていますけれども、だいたいそこを利用される外国人訪日客は、その県内でとどまるのではなくって、大抵近隣県も回られるというのが今の実態であるならば、ぜひそれを生かしていきたいと思っています。

私自身、この前タイに行ってきたんですけれども、国内でも岡山がどこにあるのかちゃんとわかってもらっていないという、広島とどっちが右かよくわかっていない人が多いわけですから、海外へ行くと本当に岡山はどこ、という話になります。そういうときにはぜひ中国地方もしくは西日本とか、ある一定の塊でセールスをするほうが絶対に相手の印象にも残りますし、我々自身の観光地、後楽園すばらしいですよというだけだとインパクトに欠けることがあるかもしれませんけれども、そこで鳥取砂丘もありますよとか、広島の原爆ドーム・平和記念公園もありますよとか、全部入れることでまたインパクトも増えてきますし、ぜひ我々のエリアに注目していただく、知っていただくことでそれぞれの地域、岡山県内にもそれぞれの観光地があるんですけれども、みんな恩恵を受けるのではないかと思っています。ぜひ広域でのＰＲについて、これまで以上に協力していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○平井知事　大賛成でございまして、だいぶん旅の構造が変わってきたと思うんですね。今、海外からの誘客が進んでいまして、私どものところでも上半期でだいたい４割ぐらい外国人観光客が増えました。岡山県と実はルートが一緒なんですね。たぶん岡山県も同じようなペースで伸びておられるんじゃないかと思います。私どもも実は昨日まで香港に職員を派遣して、今年一年の香港からの誘客プログラムを話し合ってきたんですが、また同じように香港から岡山、鳥取に行ってみたいという熱烈なお話が来ています。私どもも昨年の夏休み時期に２２のツアーが次から次へと香港からやってきたわけでありますが、必ずといっていいほど岡山で桃狩りをしていかれるわけですよね。そういうように、いわば両県のものはくっついてるわけです。最後は水木しげるロード等で仕上げて帰るというこ

とになっているんですけれども、こんなようなことで両方回るようなツアーをもっともっと実は呼び込めるのではないかと思います。特に今、エバー航空が岡山に入ってこられまして、これも継続されてまして、実は鳥取県でも台湾のお客様が急増しているんです。やはりそういうものでありまして、今は伊原木知事がおっしゃったように密接不可分の関係にあるわけですね。ですから、今までと発想を変えて、例えば韓国とかソウル向けであればそれぞれの空港にソウルから飛行機が来ていましたけれども、台湾だとか、あるいは香港だとか、今おっしゃる東南アジアだとか、こういうところは共同で呼び込むということを積極的にやれればいいと思います。

中国地方知事会でも広域観光部会をつくろうということになりました。今おっしゃるようなお話で、東南アジアとかは、これは共同で呼び込まないと市場ができないと思いますが、今のマーケット情勢からいいますと、急増しているのがタイ、それからインドネシア、マレーシアといった辺りでありまして、台湾も伸びていますけれども、そういうところにありまして、中国だとか韓国だけでないんですよね。そうなりますと、従来とは違ったお客様の呼び方をやっていく必要があって、ぜひ共同プロモーションができればありがたいと思います。

また、東京方面、首都圏での観光情報発信を、今回こういうアンテナショップができますことになれば、むしろ両県でやりやすくなると思います。四国とそれから中国地方、中国地方の象徴として岡山県、鳥取県というところをターゲットゾーンにしていただけるようなプロモーションを東京でもやる。それがまた世界へもつながっていくことになるんではないかと思います。

ジビエ料理なんかも、実はヨーロッパの人には高く売れる話でございまして、そういう意味ではヨーロッパの人向けにジビエを、アンテナショップでもレストランでちょっと出してもいいかなという感じがいたします。また、意外なところでシカの角、あれが中国ではものすごく高いんですね。それで今獲れないわけでありますので、日本のシカの角は向こうへ出せばとんでもない値打ちが出るわけでありまして、こういうものが観光商品、海外からの誘客につながっていければ、いろいろ農業被害の防止だとか広がりが出てくるんじゃないかと思います。ぜひ、伊原木知事のご支援とご協力をいただければありがたいと思います。

（５）両県を結ぶ高速道路ネットワーク等の整備促進

○平井知事　また、併せてそのためにも高速道路のネットワークづくり、これをぜひ伊原木知事のサポートで強化できないかと思います。今日も岡山道を通ってこの倉敷に入ってまいりました。まだ４車線化が全部できているわけではございません。さらに岡山道が米子道につながって、これが中国横断道になるんですが、この米子道も蒜山インターチェンジから先のところの４車線化ができておりません。雪もございまして、蒜山から向こうに行きますと危険なところが続くわけでありますので、ぜひ４車線化を働きかけていくと、両県共同でできればありがたいと思います。

また、動線として、両県をつなぐ観光はこれからますます盛んになってくることを思いますと、東のほうの鳥取道、これも大原が開通して昨年大きく前進しました。さらにそこから先の播磨自動車道が、これは兵庫県内の話ではありますけれども、ございますし、あと見逃せないのが美作岡山道路でございまして、これもポジションとしては南北をつなぐ要路になります。これなどもぜひ岡山県側でも建設を促進していただけるとありがたいと思います。また、真っすぐ岡山道、米子道から北に上るのが北条湯原道路という、これも地域高規格道路でございます。鳥取県側も７キロの関金道路のところが残っていますけども、あとはだいたい今つながり始めております。岡山側でもぜひこの建設を促進していただきまして、道路ネットワークができ上がるとありがたいと思います。

実は今、日本海側の山陰道も東西がつながり始めていまして、鳥取県内、昨年の末、１２月１４日、２１日と相次いで開通式がありまして、もう大方、３分の２ぐらいできたわけでございます。もうすぐのところまで来まして、これがつながりますと本当に周遊する交通ネットワークができます。観光産業さまざまな効果が出てくると思いますので、ぜひそうしたハード面での支援をお願いを申し上げればと思います。

○伊原木知事　そうですね、ここにちょうどいい地図を置いていただきましたが、昨年ここの西粟倉・大原間、ここが供用開始になりましてご一緒に式典に出たわけですけれども、ほかが全部できていたのにここが遅れたというのは、広く見ればこことここができていて、ここができていなかったというのは、これは本当にご迷惑をおかけしたなという思いもございまして、やはりネットワークですからきちんとつなげていかなければいけないと。我々もこの岡山の地図だけではなくて、もう少し広目の地図でそれぞれのアクセスの向上というものを考えなければいけないですし、ぜひ近隣県の皆さんにもそういう観点で、当然我々のほうが助けていただく場面もあろうかと思いますので、お互いの交流がしやすくなる、それが産業のためであり観光のためであり生活のためであり、もしくはいざ

何か災害が起きたときの救援の道であったりしますので、できていないよりは２車線でも暫定開通のほうがありがたいんですけれども、実際今日来られて、やはり２車線というのは対向しているわけですから、安全性というのもそうそういいわけではない。ぜひ、ここは本当にインフラですので粘り強く働きかける部分、それから自分たちの予算でやっていく部分、両方あろうかと思いますけれども、しっかりしていかなければいけないと思っています。私自身この１年間で随分勉強した部分です。私は、あまりいろいろ中国地方を動き回る仕事をそうそうしていなかったものですから、この重要性というのは２年前はそこまでわかっていなかったわけですけれども、ぜひしっかり取り組んでいきたいと思います。よろしくお願いします。

（６）大規模災害時における両県の連携

○伊原木知事　少しずつ時間も来てまいりましたけれども、最後の項目、大規模災害時における両県の連携について、最後私からお願いしたいと思います。

とにかく広域連携の取組の中でも防災に関することは、県民の命、財産を守るため大変重要なテーマでありまして、私の就任前、平成２３年度に中国５県また中四国９県の枠組みでカウンターパート制の相互支援体制を構築したと、これはすばらしいことだと思います。私も最初説明を受けたときに、これはいいアイデアだなと思いました。

その流れの中で、昨年５月の中国地方知事会議で私から提案させていただいたんですけれども、ぜひそのカウンターパート制をより実効性のあるものにするために、お互いの職員の人事交流をしたいと申し上げましたところ、平井知事のご高配によりまして、鳥取県さんと岡山県の間は相互に１名ずつ防災部局に職員を派遣できることになりました。本当にありがたく思っています。何かあったときにさあ助けるぞということで言えば、岡山県は鳥取県さんをお助けする立場、我々は広島県に助けていただく立場なんですけれども、どんと乗り込んだときに地理がわからない、もしくは担当の人たちの顔がわからないようだとなかなかいい支援が難しいということで、できるだけ支援する先の地理、それから支援する先の主な職員の顔と名前がわかると。その人がずっと防災担当でいなくても、その人が何か道先案内、先導になってくれると随分違うなと思っています。

あと、岡山県と鳥取県というのは非常にありがたい相互位置関係にありまして、南海トラフ巨大地震が発生したとき、岡山県は津波が心配なんですけれども、鳥取県は津波がほとんど考えられないと。鳥取県のほうで心配な災害はあると思うんですけれども、岡山県

がその災害に同時に被害を受けにくいということで、お互い連携をするには非常にいい関係にあると思っております。そういうことを活用しまして、今光ファイバーケーブル網が相互に接続しているわけですから、何かあったときにお互いのバックアップをすることは本当にすばらしい考えだと思いますし、何かあるときにまず隣県で駆けつけるという協力関係を少しずつでも進化させていくことがお互いの県民のよりいいかたちの安全につながると思います。今回いろいろなアイデアが出てきて、今日前に進めることができることを大変うれしく、ありがたく思っておりますので、ぜひ今後ともよろしくお願いいたします。

○平井知事　職員の交流につきましては、伊原木知事が熱心に中国地方知事会でも呼びかけられまして、私も全くそのとおりだと思います。そういう意味でテストケースとしてまずは１人交換をするということから始めてみてはどうかと思います。実は、もっともっとやらなきゃいけないことはいっぱいあると思いますんで、さらに両県の防災協力を強化できればと思います。

今、伊原木知事がおっしゃったように、私どもは後進県でありますが、情報ハイウェイは岡山が全国でも先導的につくられました。それに鳥取県がループ状につないで、平成２２年でしたかね、２カ所目をつなぎまして、これで完全に岡山と鳥取の情報ハイウェイが一体化することになりました。これで両県がデータベースをいわば共有できるようになるわけであります。私どもも豪雪災害が最近あったり、それから豪雨災害もございますけれども、ああいうときに意外に役に立ったのは、ツイッターを初めとしたインターネットのものであるとか、また雪が降ったときの交通情報なんかはある程度の大容量の情報ハイウェイを通じて情報提供する、これがとてもドライバーとか観光客に役に立つわけですよね。しかし、何かこう大きな被災をしてしまうと県庁がやられてしまうということがあります。また、我々も鳥取県西部地震で経験しましたが、一気に情報通信量が増えるんですね。携帯電話がパンクするのはよく知られていますが、ホームページ等もそういうインターネットのサーバーもやはり容量がございますので、一気にアクセスがくると潰れてしまうということになります。そこで、同時被災がないという岡山・鳥取の両県のデータベースを相互にバックアップでつくり合って、それで災害情報が十分提供できる体制をつくるというのは、ぜひとも全国のパイオニアでやってみてはどうかと思いまして、これまで実証研究も進めてきていただきました。今日それがまとまれば、本当にありがたいと思います。

さらに、私どももそうでありますし、お互いに持っている情報資材、例えばケーブルですね、情報ハイウェイのケーブルが切れたというときに、それをお互いに融通し合う、あるいはパソコンのような端末だとか、情報通信になくてはならないもの、これもお互いに備蓄がそれぞれにありますから、これをそれぞれの県で融通し合うことを協定することは全国でも珍しいことだと思いますが、これからの時代に必要なことだと思いますので、ぜひ今日、その取りまとめを伊原木知事にお願いできればと思います。よろしくお願いします。

○伊原木知事　はい、よろしくお願いします。ありがとうございます。

盛り上がって、少し時間が押してしまいましたけれども、本日は予定された議題について全て意見交換ができましたので、これでとりあえず第１部を終了させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

○平井知事　どうもありがとうございました。

４　協定の締結

〔「鳥取県及び岡山県による共同アンテナショップの開設に関する協定」及び「災害等発生時における情報発信等に関する相互支援協定」の締結〕

５　記者会見

○司会　それでは、引き続きまして、この場所で記者会見を行いたいと存じます。

質問される方は、恐縮でございますけれども、挙手の上、社名とお名前をお願いできたらと存じます。どなたからでも結構ですので、どうぞ。

○岡山放送株式会社

ＯＨＫ岡山放送の河原と申します。よろしくお願いします。両知事にお伺いしたいんですが、今日アンテナショップの開設協定ということで、本格的にアンテナショップ開設に向けて動き出したかと思うんですが、そのことについて協定を結んだ後ということで、第一声ということでちょっとお気持ちを一言ずつお伺いしたいんですが、お願いいたします。

○伊原木知事　失礼して私から。私、アンテナショップを開きたいということを選挙中から言っていました。ここまではっきり認識できていたわけではないんですけども、岡山は知名度が足りないことで損をしているということだったわけなんです。ただ、やるからに

は、これは一回場所を決めてつくってしまったらちょっと場所が悪かったということで半年、１年で動かすわけにはいきませんから、いい場所をいいかたちでつくりたいということで、動きが遅いじゃないかという一部の批判に耐えながら、じっくりいろんな物件を探していたわけですけれども、私が就任した時点でこういういいかたちでできるとはちょっと思っていなかったものですから、大変楽しみにしています。これで成功が約束されているわけじゃなくて、これからいろいろないいアイデアを盛り込んでやっていくわけですけれども、現時点で大変楽しみなスキームが組めたと、うれしく思っています。

○平井知事　これからは農業にしろ、水産業にしろ、我々食で打って出なければなりません。また、備前焼、あるいは鳥取でもいろいろな伝統工芸品がございます。そうしたものも見直される時代に入ってくるだろうと思います。ただ、窓が開いていなければ、それを見てもらえることにはなりません。東京に窓を開けて、岡山・鳥取両県を見てもらえる場がこうして生まれることは、大変に意義があると思います。

鳥取県も、私も実は今、びっくりしましたけど、私も選挙公約の中でアンテナショップをつくるということを掲げまして、前の知事とはそこは政策をひっくり返すところだったんですね。非常に苦労しながら１店目をつくりました。非常にやってみて思ったんですけれども、これで在京メディアがなびいてくれる。ワイドショーなんかに出てくるわけです。そうしたことがまた販路開拓につながってくる。非常に効果があるなと思っていました。

ただ、やり始めて皆さんいいなとわかってきたところで、物足りなさが出てきたわけです。もっとやっぱり大きくやらなきゃいけないと。ただ、それは鳥取県１県の力ではできないところでありましたところに、同じ江戸時代に池田家をいただいた岡山から援軍がやってまいりまして、これで大きな力を得ることができました。岡山・鳥取両県がそれぞれ相補い合って、東京で城を構えるというのは大きな意味があると思います。ぜひ、目の前に四国の島が見えるところにできますので、こちら側、本州側、中国地方側の魅力を東京の首都圏の人に知ってもらいたいと思います。ぜひ頑張りたいと思います。

○司会　それでは、他の方いらっしゃいますでしょうか。

○株式会社新日本海新聞社

鳥取県の日本海新聞の北尾と申します。アンテナショップの今の関係ですが、今後運営委員会のようなものをつくって具体的なことを詰めていかれると思うんですが、現段階でどういったことをこれから具体的に協議を進めていかれようと思っているか、何かアイ

デアみたいなものが少しあればもう少し具体的に教えてください。

それから、東南アジアへの共同プロモーションということでしたが、これも具体策といいますか、例えばタイとかに両県で一緒に出かけたりとか、そういうようなアイデアがあるかどうか、教えてください。

○平井知事　実は、これから事業者を選定しなければなりません。今まで下話も進めてまいりまして、基本的には割り勘でやっていきましょうということにいたしました。ただ、例えば飲食もあれば、それから販売の物販もございます。観光等の情報発信基地というような使命もあります。そうした意味で、これを円滑に進めていくためにまず選定を行うことをしなければなりません。さらに、これから売り出していくためには催事ですね、催し物も大切であります。そういう意味で岡山・鳥取両県でそれぞれの魅力あるステージも可能だと思います。伝統芸能だとか、あるいはマンガを絡めるとかいろいろあろうかと思います。そうしたこれからのもくろみ、年間を通じたもくろみ等を練り上げていかなければなりません。ですから、両県の代表者が出て、さらに物産関係だとか観光関係の民間の方も入られるようなかたちでこれからの運営を行う組織をつくっていく必要があります。できれば速やかに、今日協定が結ばれましたので、今後事業者の選定に入ることにしようと、お互いの事務局ベースでの話もさせていただいているところでございます。

東南アジア等の誘客についてですけども、これは今後また伊原木知事とも話をさせていただきたいと思います。また場合によって、中国地方知事会の広域観光の部会の中でも議論できようかと思いますが、私は理想を言えば、ある程度の知事でまとまって、特に岡山・鳥取両県でまとまって、先ほどタイとおっしゃいましたけども、タイは一つの狙い目だと思いますので、両者で出かけていって、例えばチャーターフライトとか、それからツアーの引き込みとかをやる値打ちがあるんじゃないかと思っています。

今日は、あらかたの方向性の合意はできたと思いますので、国際的な広域連携をぜひ具体的に進められればと思っております。よろしくお願い申し上げます。

○伊原木知事　私から補足ということで、これからの段取りについてはさっき平井知事がおっしゃられたとおりであります。運営協議会を立ち上げて粛々と準備を進めていくと。１県でアンテナショップをするよりも、ちょっと手間は増えます。それぞれで考えたことをお互い持ち寄って同意していかなければいけませんので、そこは粛々ときちんと、もし何か意見が違う場合にはお互いを尊重しながら話し合いで解決をしていきたいと思います。幸い平井知事とはいろんなチャンネル、もしくはいろんな機会でお会いできますの

で、いろんな場面で調整ができようかと思うんですね。そもそも大半の実務的なことは、それぞれの実務担当者でできると思います。共同でプロモーションをしていくということも、アンテナショップが一緒になると機会も多分増えるんじゃないかと思います。このアンテナショップを、たぶん鳥取県さんもそうなんですけれども、自分たちで単独でアンテナショップをすることも十分考えられたのにあえて共同でするというのは、そちらのほうが得だということをお互い判断しているからであります。プロモーションも非常に似たような力学というか、力が働きまして、自分たちだけでやるよりも協力して共同でやったほうがいい場合が非常に多いと。これも先ほどのお話のように２県でやっていい場合があれば２県でやりますし、これはもう中国地方でまとまったほうがいいぞということも多々あろうかと思いますので、そういう場合にはぜひそういうことをすると。例えば１００万円かけるんであれば１００万円がより効果的な実績につながるようなプロモーションの仕方をいろいろ考えていきたいと思っています。

○司会　そのほかに。

はい、どうぞ。

○株式会社時事通信社

時事通信の内海です。今回の災害時の情報発信の相互支援の協定についてなんですけど、この協定の意義について両知事から改めて現況をいただきたいのと、先ほどのやりとりの中でも多少触れてましたけれども、他の自治体に対するこの協定の先進性みたいな部分をどのようにお考えか、その２点についてお願いいたします。

○平井知事　私からまずお話させていただきたいと思います。

これは、よそでは同じようなことはできません。それは情報ハイウェイをつなぐことから始まりました。私ども岡山・鳥取両県は、ほかとは違って情報ハイウェイ、高容量の情報通信ネットワークを光ファイバーで敷設をしたわけです。それが東側と西側でそれぞれつながっていることになります。これを活かして両方でのいろいろな取組ができないかという中で、防災の活用を話し合って、一つのフェーズとして考えてきました。

ですから、今、実は両県である程度データベースを県庁レベルで共有し合うということも始まってきております。特にこれが威力を発揮するのは災害時だと思います。災害時はどうしてもアクセスが集中します。例えば、これはやってみなければわかりませんが、これから避難所情報なんかが出てくるかもしれません。こういう方が避難所にいますよという情報って非常に大事ですよね。そんなものを一つにまとめたデータベースを今後仮につ

くることになれば、そういうものを常時、鳥取・岡山の両県でバックアップ体制をとろうということになります。ですから、仮に岡山県庁の災害のホームページがダウンしても、鳥取のホームページから、そのサーバーから全国にアクセスできることになります。このように県庁同士が災害時にデータをお互いに代わって出し合うというのは、たぶん例がないでしょうね。鳥取と岡山が初めてのことになります。

また、それと合わせて、それをサポートする資材があります。パソコンだとか、あるいはケーブルだとかですね、こういうものもそれぞれが実は備蓄をしてきたわけです、災害時に備えまして。これは、自分のところの備蓄でやっていますけども、相手に災害があったときに提供しましょうと発想を変えようということにしたわけであります。こういう情報での相互応援協定というのは非常に珍しいレベルじゃないかと思います。特にホームページのバックアップは、これは類のないところではないかと思っています。

○伊原木知事　私からも。本当にそういうことなんですけれども、あと例えばそういう協定を結ぶのが有効であれば岡山県、今度は広島県と結ぶんですかみたいなことになるんですけれども、その予定はないんです。わざわざ呼びかけることもしないです。その理由というのが結局岡山県と広島県、もしくは例えば兵庫県というのは地理的状況が似ているもんですから、我々が大変なときに、例えば津波であればたぶん広島も大変なことになってるんです。となると、助けてもらおうと思っても、あちらがご自身で大変なときにはこちらを助けてもらえませんし、広島県が大変だ、じゃあ我々助けなければというときに我々も大変なことになっていると、なかなか救いに行くことができない。そういう大変な場合において助けるときに一番いいのは、私が以前いたビジネスの世界でいえばリスクプロファイルが違うという、被害をこうむるパターンが違う、時期が違うというのがすごくいい組み合わせになります。じゃあ、そしたらリスクプロファイルが違うんだったら、岡山県は東北の青森県と組めばいいじゃないかと、確かにリスクプロファイル全然違います。ただ、じゃあ助けようというときに事実上トラックで２日かかってしまう。隣県、すぐ近くにいながらリスクの種類が違う、同時に同じ災害に遭う可能性が低い、そういうパートナーというのは大変貴重な存在ですので、この提携はそういう意味で非常に意義深いものだと思っています。

○平井知事　ちょっと地図を見てもらったほうがわかりやすいかなと思います。

さきに申し上げたのは、今、伊原木知事がおっしゃったように、実現可能性がないとできないわけですね。なぜ両県ができるかというと、これが岡山の有名なループの情報ハイ

ウェイであります。全国の先進地でありました。鳥取も９号線の下に敷設することによって情報ハイウェイをつくったわけです。これをあえて奈義から５３号線のところと、それからこちらの日野、我々のほうでは日野なんですけれど、それからこちらの新見につなげると。こういう情報ハイウェイをあえて県境をまたいでつなげたわけです。仮に災害が起こったとします。ここが切れたとしますね、切れてもこっち側がつながっていると。西が切れても東側はつながっている。ですから、災害に対して絶対的に強いループ状の情報ハイウェイができているのは岡山、鳥取両県のみなんですね。これは情報アクセスのセキュリティーのためにやったわけでありますが、これを県民に還元しようと。その意味で岡山県庁のサーバーと鳥取県庁のサーバー、どこにおいてもこれはただの情報ハイウェイで大容量でありますから提供は同様にできるわけでありまして、鳥取で災害があっても岡山の県庁のサーバーから情報を出せばいいということになるわけです。それで岡山・鳥取両県はもとより全国にも発信できると。こういう特殊な情報ハイウェイをつくってきたことが背景にありまして、今回こういう協定の締結に至ることができたということです。

○司会　よろしいでしょうか。

　では、最後に。

○株式会社日本経済新聞社

　日経新聞の阿部といいます。今回の議論の中で地方分権がらみのテーマはなかったと思うんですけれど、今後の、国の業務も今停滞局面にあると思うんですが、国への働きかけですとか中国地方知事会を通じた取組みたいなところを両県の知事に伺いたいんですけれども。

○伊原木知事　おっしゃられるとおり、これは各県の知事によって随分考え方が違う問題でありまして、あえて今回議題として出していないわけですけれども、そういうことなので、私自身の考え方でいえば、私はぜひ少しずつ協力関係を積み上げることによって、少しずつやるべきことが見えてくるのではないかと考えています。今回この両県知事会議で防災のことですとかアンテナショップについて協定を交わすことができた、それ以外についても協力関係を結ぶことができていると、こういうことの積み重ねが本当に意味のあることだと思っています。

　岡山県で聞かれるときによく、何度も言いますけれど、ＥＵが今ヨーロッパで通貨まで一緒にしていると。そしたらＥＵは何か国が合併したのかというと、そういうわけではありません。皆さんご案内のとおり、戦争をしていたフランスとドイツの国境近くの紛争の

もとになっていた石炭、あそこの地域の資源の管理を共同で進めようというところから始まって、少しずつ少しずつ積み上げていって、あそこまでいろんなことを一緒にできるようになったわけですので、ぜひ実効性のあるところから、お互いやって得になることから積み上げていけば、次に何をするべきかが見えてきて、１０年、２０年たって振り返ってみるとかなり大きな仕事、効果のあることがそんなに大きなリスクをとることなしにできるということが、私の現時点で考える理想であります。

その先が道州制なら、道州制といっても同じ名前でいろんな道州制がありますけれども、でもそういう道のりを経てたどり着いた道州制であれば、私はそれは意義深いものだとは思っています。

○平井知事　地方分権については国の話し合いといいますか、分権改革が進められなければなりません。中国地方知事会でもたび重ねて、この両県知事もメンバーに入り議論してきましたし、そのたびにアピールもしてきました。今日はちょっと時間の関係で触れる機会が余りなかったですけれども、例えば規制緩和ですね、規制緩和的に国の権限を地方に移譲する。農地の問題がその焦点になろうかと思います。これからの話し合いの、分権についての国、地方の話し合いの中心課題の一つになると思われます。

中国地方知事会で今、話をしてるんですが、私としては伊原木知事を推薦させていただいて、伊原木知事にその農地改革や農地法の改革について、全国知事会の中にメンバーとして入ってもらったらどうかと申し上げているところでありまして、我々はこれから戦いを挑んでいかなければならないのだと思います。

財源についてもそうです。消費税が増税をされます。これにあわせて地方財政対策がまとめられました。それがどう動くか、これから重要な時期なんですね。我々も今、鳥取県で財政分析をしてみますと、交付税は確かにちょっと増えますが、臨時財政対策債はごっそり減りそうです。また、消費税は確かに地方消費税として入ってくる。それが清算金として入ってくる部分がございますが、帳尻が合うかどうかは非常に微妙なんですね。非常に悩ましい。これが本当に分権改革かなと思います。もっともっとこれから各県で予算編成が進んでいくと、果たして今回の地方消費税の増税によってそれぞれの自治体のミクロベースでの、自治体ベースでの財政向上が図られるかどうか、それはまだまだ予断を許さないと思っています。こうしたことも中国地方知事会や伊原木知事との意見交換でこれからも十分話し合っていきまして、適時適切に国に働きかけていかなければいけないと思っております。

○司会　それでは、予定の時刻もまいっておりますので、以上をもちまして記者会見は終わらせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

○伊原木知事　どうもありがとうございました。

○平井知事　どうもありがとうございました。